

	発行者の略号	東書	大日本
	書名	新しい数学	数学の世界
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「わかる」「できる」を確かなものにする 「深い学び」で、考える力が身に付く 数学のよさを実感し、もっと学びたくなる	数学的活動を通して、思考力、判断力、表現力を育てる 基礎的・基本的な知識や技能が身につく 数学のよさ、考える楽しさが実感でき、数学の世界を豊かにする
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①例題と似た問題が設けられ、内容を確実に理解でき、巻末の「補充の問題」では繰り返し練習できるよう、個に応じた基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう構成されている。 ②「章の問題 B」では、「事柄や事実」「方法や手順」「理由」を記述式で説明する「活用の問題」が設定されている。 ③「学びをふり返ろう」や「大切にしたい見方・考え方」では、学習を振り返る機会を随所に設け、数学的な見方・考え方を働かせることのよさを実感し、生活や学習に積極的に活用しようとする態度を養えるよう構成されている。	①「たしかめ」「Q」「プラス・ワン」など、新しく学んだことがしっかりと身につくよう、さまざまな問題が設定されている。 ②「Q 判断しよう」「Q 伝えよう」では、数学的な判断力・表現力を育むために、学習した内容をもとに判断し、数学の用語や図などを使って他の人に考えを伝える題材が設定されている。 ③各領域の「社会にリンク」では、数学で学んだ知識が社会生活や職業などに生かされている具体例を、実社会で活躍する人物からのメッセージとして掲載されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①「学びをひろげよう」において、数学と関わる仕事をしている人の思いやその仕事内容が紹介されている。(夢への挑戦) ②「問」には、「例」と似た型の問題に「ダイヤモンド」をつけ、「例」の理解を確認してからほかの問題に取り組めるようにし、「例」と「問」の段差によるつまづきを解消できるように構成されている。(知育)	①「社会にリンク」において、職業と数学との関わり、その仕事のやりがい紹介されている。(夢への挑戦) ②学習したことと同じように取り組める「たしかめ」や「Q」を補充する「プラス・ワン」、節末の「たしかめよう」、章末の「O章をふり返ろう」、巻末の「補充問題」など、繰り返し練習する機会が設けられている。(知育)
	(ウ) 内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「深い学び」では、問題発見・解決の過程を重視した数学的活動が設定されている。また、問題「Q」では、補助疑問を手がかりとし、主体的に考えたり、調べたりする問題解決的な学習ができるような課題が設定されている。 ②他教科と関連がある問題にマークを示し、教科横断的な学習の参考になるよう工夫されている。また、「Dマーク(デジタルコンテンツ)」のついた箇所では、関連する他教科の教科書紙面がweb上で、閲覧できるようにされている。 ③「数学マイノート」では、ノートづくりの工夫や振り返りの記述例が紹介され、巻末の「レポートにまとめよう」では、論述・要約する力が育まれるような例が掲載されている。 ④第1学年では、日本伝統模様を用いた図形のしきつめ、第2学年では、桜の開花予想、将棋の先手の決め方、第3学年では楽器の鼓をイメージした建物の直径を求める課題が設定されている。 ⑤第1学年の空間図形では、5種類の正多面体を組み立て観察できるものや角錐の体積を調べられる学習具が用意されている。 ⑥第1学年のO章では、小中の円滑な接続が図れるように、かけ算の九九に関する内容が構成されている。また、第3学年の「数学のまど」や「数学の自由研究」では、高校などの先の学習につながる発展的な内容が取り上げられている。 ⑦第1学年では、必要な情報を取捨選択したり、情報を読み取ったりする課題が設定されている。第2学年では、実際のデータを用いて、目的に応じてデータを分析する活動が設定されている。第3学年では、プログラミングが体験できるように構成されている。 ⑧「基本の問題」を節ごとに設け、節の基本的な内容の理解を確認し、早期につまづきへ対応できるように構成されている。 ⑨節の導入では疑問から次の学びへと向かう意欲が高まる工夫がされている。	①各章に「活動」が設定され、これまでの学習を生かして予想したり、調べたりする問いや、考えを比べたり、話し合ったりする場面が取り入れられている。また、「Q 伝えよう」では、数学の用語や図などを使って、人に考えを伝える課題が設定されている。 ②巻末の「MATHFUL」では、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりが紹介されている。 ③第1学年の「学びにプラス(数学の表現を使おう)」では、数学的な言語力を高めるための課題が設定されている。 ④第1学年では、麻の葉模様や万華鏡、手まり、第2・3学年では、折り紙などが取り上げられている。 ⑤第1学年の空間図形では、2種類の正多面体を組み立て観察できる学習具が用意されている。また、データの分析では、データを収集するための活動が設定されている。 ⑥第1学年の巻末の「小学校の算数ふり返り」では、算数で学習した内容が確かめられるように構成されている。また、「知りたい！高校ではどんな数学を学ぶのかな？」では、高校で学ぶ数学の内容が中学校の学習と関連させて紹介されている。 ⑦デジタルデータの活用が有効な場面において、コンピュータを活用した指導ができるように配慮されている。第3学年のデータ活用領域においては、表計算ソフトウェアの具体的な操作の手順が紹介されている。 ⑧学習の習熟度や個に応じて利用することができる「たしかめよう」「O章をふり返ろう」「補充問題」が設けられている。 ⑨導入課題には「考えよう」が設定され、生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるように構成されている。
(I) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③カラーユニバーサルデザインの観点を意識し、ユニバーサルデザインフォントや具体物の写真など配慮されている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③本文にユニバーサルデザインフォントを使用するなど配慮がなされている。	
イ 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①生徒が主体的に考えたり調べたりする問題解決的な学習を通して、新たな知識や技能を身につけることができるような問題「Q」や補助疑問が設定されている。	①導入課題「考えよう」では、既習内容との関連を大切にされた課題が設定されている。また、課題解決の見通しを持ち、小問のステップに沿って考えることで、基礎的・基本的知識・技能が身につくことができるよう構成されている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②「説明してみよう」では、数学的な表現を用いて、自分の考えを説明し合える活動ができるように構成されている。また、「考えてみよう」「調べてみよう」では、既習事項を利用して、問題を解決する方法を論理的に考察できるように構成されている。	②単元ごとの利用の課題では、「問題をみいだそう」「解決のしかたを探ろう」「解決しよう」「深めよう」の4つのステップが設定され、課題を論理的に考察できるように構成されている。また、章末の「活用・探究」では、数学的な表現が身につけられるように、考えを説明するなどの数学的活動が設定されている。
	③不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③「Dマーク」が掲載されている課題では、データを処理し多様な統計グラフを作成できる「Tosho 統計ツール」や、標本を無作為に抽出して母集団の平均値を求めるコンテンツを用いてデータを整理し、データの傾向を読み取り批判的に考察する活動が設定されている。また、大量のデータページを充実させて、データ収集及び整理の練習ができるよう構成されている。	③調査活動や研究レポートの例示では、情報を取り扱うために必要な知識や配慮事項を確認することができるように掲載されている。また、「調べることを決めよう」「計画を立てよう」「データを集めよう」「分析しよう」「わかったことをまとめよう」「深めよう」とPPDACサイクルの手順が分かりやすく掲載され、問題解決に取り組むことができるよう構成されている。

	発行者の略号	学図	教出
	書名	中学校数学	中学数学
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「なぜ?」「わかった!」を尊重する力・論理的に考える力を身に付ける 多様な他者とコミュニケーションする力・少数意見も尊重した合意形成する力を身に付ける 未解決の問題への関心・社会貢献する意欲を高める	楽しさやよさを実感しながら、学力を確実に身に付ける 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通じた資質・能力の育成
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「章のまとめの問題」では、基本、応用、活用の3つに分類し、習熟度に応じた確認ができ、章末や巻末の課題で個に応じて学力を伸ばせるように構成されている。 ②「Q」では、対話的に学習が進められるように、解決に向けた見通しを立てる話し合いの場面から、生徒自ら目標を設定し、問題解決における話し合いの場面などが設定されている。 ③章末の「役立つ数学」では、身のまわりのどのようなところで数学が役に立っているのか、数学史の中で数学がどのような発展をしてきたのかを知ることで、数学の学習への意欲を高められるように構成されている。	①同じ誤りを繰り返すことがないように、よく見られる誤りを取り上げ、誤りを正しく直したり、注目したりできるように構成されている。また、学習した知識・技能には、どんなよさがあるのか、キャラクターの言葉で示されている。 ②重要な数学的な見方・考え方が使われている箇所には、学習内容に沿った具体的な言葉を添え、数学的な考え方が明示されている。 ③「数学の広場」では、日常生活や実社会に関連する話題や課題、学習したことをさらに探究する課題などが掲載されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①巻末の「表現する力を身につけよう」において、自分の考えをまとめ、他者に伝える、発表のしかたや聴き方について考えることを通して、相手の立場を尊重する態度を考える場面が設定されている。(健やかな心と体) ②「ふりかえり」「確かめよう」「やってみよう」「章のまとめ問題」「深めよう」を設け、既習事項の確認や基礎的・基本的な知識や技能が習得できているか確認し、定着が図れるようになっている。(知育)	①自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりして、自他の敬愛と協力を重んじる態度に触れる場面が設定されている。(健やかな心と体) ②本文の学習を進めるうえで、関連する既習内容を「もどって確認」で示し、基礎的・基本的内容を生徒自らが確認できるようにしている。(知育)
	(7) 内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「Q」では、側注の「見方・考え方」をもとに、解決に向けた見通しを話し合い、生徒が自ら考え、主体的に学習を進められるように構成されている。 ②「深めよう」では、他教科と関連した課題が設定されている。 ③巻末の「表現する力を身につけよう」において、レポートなどの発表のしかたや聴き方を考え、よりよい伝え方や聴き方を身につけられるような場面が設定されている。 ④第1学年では、伝統模様や和算について、第2学年では、鶴亀算、第3学年では伊能忠敬の業績が取り上げられている。 ⑤第1学年では、正の数・負の数の加法において、巻末の学習具を使ってカードゲームができるよう設定されている。また、角錐の体積を学習具を用いて考える課題が設定されている。 ⑥第1学年の各領域の「ふりかえり～算数から数学へ～」では、小学校で学習した内容が確認できるように構成されている。また、第3学年巻末の「高校へのかけ橋」において、中学校の内容と関連のある題材が取り上げられている。 ⑦各学年の巻末の「プログラミングを体験してみよう」では、スクラッチを使用したプログラミングを体験しながら、プログラミング的思考が育まれるように設定されている。 ⑧各領域の前には、「ふりかえり」のページが設定され、既習事項を確認できるように構成されている。 ⑨「トライ」や「Tea Break」「深めよう!」「さらなる数学へ」で補充的・発展的な内容を設定し、実体に応じて学習が進められるように構成されている。	①複数の生徒の考え方を適宜取り上げ、よりよい解決方法を見つけようとする場面や、誤りであることを論理的に説明する力を身につける場面が設定されている。 ②陸上トラックの作り方、記号や式の英語の読み方、斜面上の球の運動など、他教科と関連の深い場面が取り上げられている。 ③「レポートをかこう」では、調べて分かったことや感想などをレポートにまとめた例が示されている。 ④数学に関連する伝統文化や他国の数学の歴史が紹介されている。 ⑤「Q」では、作業、観察、実験、調査などの活動を通して、結果を予想したり、新たな法則や性質を見いだしたりする場面が設けられている。 ⑥第1学年の空間図形では、5種類の正多面体を組み立て観察できたり、角錐の体積を調べたりする学習具が用意されている。 ⑦「算数から数学へ」では、小学校から中学校への学習内容の拡張が示されている。また、「ひろがる数学」では、中学校から高等学校へ学習内容がどのようにひろがっていくかが紹介されている。 ⑦動的な表現や3Dによる立体表現を活用できるようなデジタルコンテンツが用意されている。 ⑧「例」と「たしかめ1」の問題の型をそろえ、順序立てて無理なく取り組めるように設定されている。 ⑨式の計算や方程式では、系統性を考慮しながら易から難へと配列されている。また、巻末の「数学の広場」では、本文の学習をさらに発展させられるような課題が設けられている。
(I) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③カラーユニバーサルデザインの観点を意識し、色だけでなく形でも判別できるような工夫がなされている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントを使用し、図においてはカラーユニバーサルデザインの工夫がなされている。	
イ 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①小タイトルを入れることで、どんな知識・技能をこれから身につけていくかを明示し、「どんなことがわかったかな」では、目標に沿った形で提示し、項の学習を通してどのような知識・技能を身につけることができたかが明確になるように掲載されている。また、「次の課題へ!」で既習事項を確認した上で、思考が次の課題へ繋がるよう構成されている。	①章末の「学習のまとめ」では、各章の重要事項や解法がまとめられ、基礎的な知識や技能の習得の確認ができるよう構成され、「例題」「たしかめ」「問」「補充問題」と段階的に学習しながら力を身につけられるよう配慮されている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②単元ごとに「数学的活動」が設定されており、協働的な学習をもとに、主体的に問題発見から課題解決、さらに新たな問題を発見することができるように構成されている。また、章末には、振り返りや考えが深められるよう「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」が設定されている。	②単元ごとの利用の課題では、課題を図や表を利用しながら「問題をつかもう」「自分の考えをもとう」「友だちの考えを知ろう」「みんなで話し合おう」「深めよう」と論理的に課題解決が図れるよう構成されている。
	③不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③巻末の「今の自分を知ろう」では、SDGsの17の目標に関連する題材が設定されている。データから傾向や問題点を捉え、自分たちにできることはないかを考える中で、判断する力が身につけられるよう構成されている。	③複数の不確定な事象を扱い、目的を持ってデータを収集し、データ処理や傾向を読み取り、判断できるように構成され、第2学年の「データの分析」では、気象データの課題を多角的に考察できるような流れで構成されている。

	発行者の略号	啓林館	数研
	書名	未来へひろがる数学	これからの数学
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	数学を学ぶ楽しさや意義を実感でき、質の高い学びを実現できる教科書 資質を活かし、様々な能力を高めていくことができる教科書 数学を通して、社会生活の課題に対しても活用できる「数学的な見方・考え方」を体得できる教科書 生徒自らが学びの過程をふり返って評価し、改善する力をつけることができる教科書 授業内だけでなく、様々な学びの場で生徒が使いやすくなる教科書 学習の中でICTを有効に活用できる教科書	数学の基礎的・基本的な知識や技能が確実に身につく、豊かな人生を送るための基盤をつくる 数学的な見方・考え方や自己の考えを表現する力が、日々の学びを通して自然に身につく 個に応じた力を伸ばし、創造性を培い、身につけたことを生活の中で活用する力を高める 生命や自然、伝統や文化、他国を尊重するとともに、社会をよりよくしようとする態度を養う
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「例」と「例題」が設定され、基礎的な知識を段階的に学習していく内容と既習事項を利用して学習していく内容を区別して取り組めるよう構成されている。 ②「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」では、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較して考えたりする場面が設定されている。 ③巻末の「学びのあしあと」では、学びの記録を残すことで、自らの学習を客観的に振り返ることができるように構成されている。また、巻末の「学びをいかそう」の「社会見学にいこう」では、生活や職業と関連する題材が取り上げられている。	①例題には、学習内容の理解がしやすくなるようにねらいが記載されている。また、例題の解答例は、ノートに簡潔に書けるようになっているほか、様々な考え方に触れられるようにいくつかの解答例が掲載されている。 ②別冊「探究ノート」には、既習の内容を総合的に活用して解決できるような身のまわりの問題が設定されている。また、全体が対話的な学びの構成となっており、説明する問いかけや方法や理由を説明する問いかけが設けられている。 ③様々な身近な問題が取り上げられており、数学を活用する意識することや数学の有用性を感じることができるように構成されている。
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①「学びをいかそう」の「社会見学にいこう」では、職業と関連する題材が設定されている。（夢への挑戦） ②基礎的な知識・技能の確実な定着を図るために、計算や式の変形などが丁寧に示され、スモールステップでの学習が進められるよう構成されている。（知育）	①別冊「探求ノート」には、自分の考えを表現し、まとめるページが設定されている。（自ら考え表現する力） ②「ふりかえり」、「確認問題」、「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」では、既習事項のふりかえりや基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を育むことができるよう構成されている。（知育）
	(ウ) 内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」において、自分の考えを他者にわかりやすく伝える場面、他者と自分の考えを比較してよりよい考えへと高めていく場面、ノートやレポートに考えを整理する場面が設けられている。 ②雷の音の速さ(理科)、ストリングアート(美術)、ランドルト環・AED(保健体育)など、他教科で学習する内容が取り上げられている。 ③「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」において、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較して考えたりする場面が設けられている。 ④日本の伝統模様、さっさ立て、大矩、曲尺など、日本の伝統のよさを感じ取れるような題材が取り上げられている。 ⑤「学習のとびら」において、観察や操作を取り入れた活動やデータを収集して整理する場面が設定されている。 ⑥第1学年では、「算数をふりかえろう」において、速さ・道のり・時間、割合、小数、分数を扱い、学び直しができるように構成されている。また、「学びをいかそう」の「発展」において、高校数学につながる内容が取り上げられている。 ⑦情報通信ネットワークを使ってデータを収集したり、コンピュータを使って整理したりする場面が取り上げられている。 ⑧新しい学習に入る前などでは、「ふりかえり」で関連する既習内容を示すことによって、振り返りながら学習が進められるよう構成されている。また、「ふりかえり〇年」のように示し、学習のつながりも意識できるように構成されている。 ⑨単元ごとの利用の課題では、数学を使って問題を解決したあとに、その結果を発展的に考えたり、深めたりする3段階のステップが設定されている。	①「Q」、「TRY」では、課題に取り組むプロセスがキャラクターの対話によって例示され、多様な意見を比較検討し、まとめていく場面が設定されている。 ②数字に関する英単語(英語)、圧力、濃度、天体(理科)、世界遺産に登録されている五箇山、富士山、ナスカの地上絵(社会)が取り上げられている。 ③「学習の進め方」や「ノートのつくり方」、「レポートを書こう」では、ノートやレポートの書き方、発表の仕方がわかるガイダンスページが設定されている。 ④第1・3学年では和算・算額、第2学年では和紙・鹿威しが取り上げられている。 ⑤第1学年の作図では、定規などを用いて、条件を満たす位置を探す課題が設定されている。また、別冊「探求ノート」には、規則性を見つけるための表や機関庫の模型を作るための作図が書き込めるように構成されている。 ⑥「中学1年のまとめ」では、算数の内容をまとめて確認できるように構成されている。また、高等学校で学ぶ内容に触れられるような「発展」のページが設定されている。 ⑦関数、図形、データの活用の各領域では、生徒が実際に操作しながら考察することができるデジタルコンテンツが設けられている。 ⑧章のはじめの「ふりかえり」では、その章の学びに関連する既習事項を振り返ることができ、このページに関連した内容が現れる箇所には「ふりかえり」の内容が掲載されている。 ⑨「問」、「確認問題」、「問題 A・B」、「チャレンジ編」と段階的に計算に取り組めるよう構成されている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③メディアユニバーサルデザインの観点を持ち、ユニバーサルデザインフォントを用いるなどの配慮がなされている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントが全体的に使われるなど配慮されている。	
イ 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①「ひろげよう」では、これまでに学んだことをもとにして考えたり、予想したりして、新しい学びがスムーズにつながるように構成されている。	①各学年で学んだ知識を活用して解決する課題が別冊「探究ノート」にまとめられ、問題解決力を高める課題が設定されている。
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②単元ごとの利用の課題では、自分から問題を見いだしたり、解決した問題をさらに発展させたりする力を育むための3段階のステップが設けられている。また脚注には、様々な問題解決の際に必要な数学的な見方・考え方が掲載されている。	②「TRY1」、「TRY2」では、段階ごとに課題の難易度が上がることで論理的に考察できるような課題が設定されている。また、キャラクターの吹き出しには、課題解決における助言だけでなく、解決の過程の振り返りや考えを深められるような内容が掲載されている。
	③不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③「説明しよう」や「話しあおう」が設定され、データの傾向を読み取り批判的に考察できるように構成されている。また、問題解決に取り組める題材として、身近な生活の中に隠れている様々なデータが設定されている。	③第1学年では、気温の変化を主たる題材として、データ処理の方法や傾向の読み取りを順に身につけられるよう構成され、第2学年の箱ひげ図では、学習にスムーズに入れるようにするために、導入として小学生で学んだドットプロットを用いた課題が設定されている。

	発行者の略号	日文	
	書名	中学数学	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「主体的・対話的で深い学び」を実現する 「わかる・できる」を確かなものにする 「数学は楽しい、役に立つ」を実感する	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①例題にタイトルが掲載されており、きめ細やかなステップで展開され、基礎的・基本的な内容が理解しやすく、そして復習しやすく構成されている。また、章の導入前に既習事項が確認できるような問題が設定されており、基礎的な知識の理解状況が確認できるように構成されている。 ②数学的に説明をする学習の初期段階では、穴埋め形式で説明を完成させる問題が設けられるなど、数学的な表現力が段階的に身につけられるように構成されている。また、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する課題として「深めよう」が設定されている。 ③巻末の「暮らしと数学」や「数学を仕事に生かす」では、生活や社会の中で数学が重要な役割を担っている事例が紹介されている。また、章の終わりには、章の内容に関連した内容に関する「数学のたんけん」が設定されている。	
	(4) 市町の方針との関連 ② 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①他者とのかかわりを通して多様なものの見方や考え方があることを理解し、助け合ったり高め合ったりできるような場面が設定されている。(健やかな心と体) ②各小節の「問」では、基礎的・基本的な内容が確実に定着できるような問題が設けられている。また、難易度が高い問題として側注に「チャレンジ」、基本的な問題として巻末に「補充問題」が設定されている。(知育)	
	(7) 内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「考えよう」、「話し合おう」、「深めよう」、では、主体的・対話的で深い学びを実現するための課題が設定されている。 ②科学や芸術等、他教科とのかかわりのある学習題材が設定されている。 ③巻末の「数学レポートをかこう」では、数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することを通して、その結果を共有できるような内容が構成されている。 ④第1学年では、伊能忠敬の測量、麻の葉模様など、第2学年では、勘者御伽双紙や国内外の数学者の歴史が紹介されている。 ⑤データの分布では、全国各地の最新データを容易に入手できる気象データを収集して整理する活動が設定されている。 ⑥第1学年の巻頭の「算数の確かめ」や巻末の「算数の確かめ【問題編】」では、小学校算数で学んだ内容を確認することができるように構成されている。また、高等学校で扱う学習内容には〈発展〉マークが掲載されている。 ⑦プログラミング的思考が育まれるように、全学年に「プログラムと数学」が設定されている。 ⑧各章のはじめの「次の章を学ぶ前に」や「たしかめ」では、授業における生徒のつまづきを防ぐような内容が構成されている。 ⑨小節末の「やってみよう」や章末の「とりくんでみよう」、巻末の「数学マイトライ」などでは、生徒個々の実情に応じて扱うことができる課題が設定されている。	
	(1) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントを使用するなど配慮がなされている。	
イ 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①学習の目的意識を持たせるために、学習の「めあて」が示されている。また、脚注には、本時に学習した知識・技能から次の課題へつながる内容が記載され、側注の「大切な見方・考え方」では、「知っていることを使えるようにする」や「同じように考える」などが明示され、学習した知識・技能が問題解決に生かせるように構成されている。	
	②言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。	②初出の数学用語の理解や用語を正しく使ったり、根拠を示して説明したりする数学的な表現が身に付くような具体例が「表現の例」として示されている。また、「学び合おう」では、巻末の「対話シート」を用いて、数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自分の考えを整理し、他者と考えを伝えあうことや、その過程や結果を振り返ることができるように構成されている。	
	③不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	③第1学年では、ヒストグラムの見方を表に整理して具体的に示し、より良い話し合いができるように構成されている。また、第2学年では、範囲と四分位範囲それぞれの良さや違いを理解できるように、それぞれの特徴が表に整理され掲載されている。	